



自治連だより

第16号



継続は力なり!

会長 池原 範雄

新年おめでとう

ございます。

「安全で安心して心豊かに暮らせる地域づくり」、これが私たちのめざすところであり、使命でもあります。

変化の激しい現代にありましては、少子高齢化が進展する地域の中にあつて、稀薄になった人間関係を取戻しながら活性化を図ることは、極めて難しい課題です。

しかしながら、地域を住民の視点に立ち返って、足元から見直し、問題点を着実に解消し続けていくなら、住民参加の活動は活性

化し、夢(目的)の実現に近づいていくものと確信しております。

「元氣だから動けるのではない、動くから元氣なんだ」の言葉があります。が、じつとしていては何も生まれません。

また、「追い続ける勇氣があれば、夢は実現できる」とも言われていますが、継続は力です。

市民の誰もが、愛着をもって住み続けることのできる地域づくりに、全力を上げたいと思います。ご支援をお願いいたします。

城北地区

「城北ふらっとサロン」開設

城北地区

会長 坂田 健治

城北いこいの家では、毎週水曜日に高齢者が三々五々集まって、賑やかなサロンが開かれています。

この「ふらっとサロン」は高齢者の居場所づくりにと、平成二十三年十一月から、城



若い人の手品で楽しいひととき

北社協「助け愛ネットワーク班」が毎週一回開設している。誰でも、いつでも、予約もなく、ふらっと来て談笑の輪に入り、いつでもふらっと退席できる、規則や縛りがない、住民が気ままに参加できるサロンをめざして運営にも工夫をしています。

サロンは、毎回三十人程の人が会費二百円で参加され、コーヒーやお茶は飲み放題、茶菓子も準備されていて、おしゃべりしたり、カラ

オケで歌ったり、卓話を聴いたり、時には不要品交換会があったりと、いつも楽しい時間を過ごしている。

また、月一回は二百五十円の材料費の負担で、食生活改善グループにより軽食も準備される。その他にもそば打ちグループによるそば打ちで試食会も企画され、参加者にも大好



軽食を食べながら談笑

評である。

城北社協「助け愛ネットワーク班」では、この軽食サービスを現在月二回実施されている食事サービスを補完するサービスとして充実発展させ、条件を整えば週一回の開設を週二回・三回と回数を増やし、運営をコミュニティサービスの手法による取組にしたいと模索中である。



町内会長研修会について

昨年七月十八日、とりぎん文化会館第二会議室において、町内会長研修会を開催し、町内会関係者約百名に参加していただきました。

今回は、賀露町出身で、米子市在住の山田晋氏を講師に迎え、「住民自治の『あるべき姿』を求めて」と題してご講演いただきました。

ふるさと賀露での青年時代



をはじめ、教員生活、海外ボランティアで出会った人たちの生き生きとした暮らしぶりや考え方を紹介しながら、「帰ってきたくなるようなふるさとづくりがまちづくり」であり、まちづくりは、「自分たちが楽しくなければ、他の人も楽しくない」など、ご自身の体験に基づき、お話ししてくださいました。

親しみやすい米子弁で語られるユーモアたっぷりのエピソードの数々に、しばしば笑い声がおこり、参加者一同すっかり山田ワールドに魅了されてしまいました。

参加者からは、発想の転換・考え方を変えるだけで町内会の活性化が出来るかもしれない、勇気をもらえた、などの感想が聞かれました。最後に池原会長が講演のお礼を述べられ、研修会を終えました。

美穂地区

わんぱく塾 大はしやぎ

美穂まちづくり協議会
会長 竹森貞美

美穂まちづくり協議会には、「総合企画部」「安全・安心部」「子育て・教育部」「健康・福祉部」「農業・環境部」の五つの部会があり、それぞれの部会が事業を計画し運営しています。今回は「子育て・教育部」の主要事業である『わんぱく塾』について紹介いたします。

今回で三回目となる『わんぱく塾』は昨年八月二日(金)・三日(土)に地区公民館にて開催されました。子ども達の参加



体育館にて宿泊

募集は青少年育成指導者会が行い、三十五名の参加がありました。大人は運営の手伝いや見守り役として、保護者とまちづくり協議会の役員さんに声掛けをし二十二名が協力してくれました。参加費は五百円と米二合とし、その他カレーライス・サラダの具材、スイカ・メロンなどのデザートも提供も協力依頼しました。

この『わんぱく塾』の特徴は、普段出来ないことをのびのびと経験することです。そのいくつかを紹介します。

まず最初に、自分達で火をおこし飯ごうでご飯を炊くことです。普段禁じられている火を扱うことに興味を持ち、皆で協力して行っています。もう一つは公民館に宿泊することです。友達と一緒になので気が高揚し、なかなか寝付けないので、大人を悩ませています。

極めつけは花火終了後、消火を兼ねての消防団による放水シャワー、これには一段と歓声をあげて大はしやぎです。なお、大人たちは、子ども達を寝かせた後、適宜懇親を深めています。

日程

- [2日]**
17:00 集合(美穂地区公民館)
17:30 夕食づくり・テント張り
男子：飯ごうでご飯炊き
女子：カレーづくり
19:00 夕食
20:00 お楽しみタイム
ゲーム、バルーンアート
クイズ、花火
花火終了後消防団による放水シャワー
21:00 就寝(公民館2階・テント)
- [3日]**
6:00 起床
6:30 ラジオ体操
7:00 朝食
8:00 解散



飯盒でご飯炊



全住民がとなり組 足山自治会(松保地区)

21世帯、70人余りの松保地区でも一番少ない集落「足山」。全世帯が自治会加入である。定期会合は年6回、決め事は全員一致が原則。

自治会の主な活動は、共同作業・コミュニティ活動・助け合い活動である。

全世帯参加の共同作業は、水路清掃・道路清掃・花壇作り等の環境整備保全活動である。今問題なのは、周辺地域から農道を通る自動車の事故、農道の破損、犬の散歩中の糞害等である。集落で対応できないのが悩みの種である。

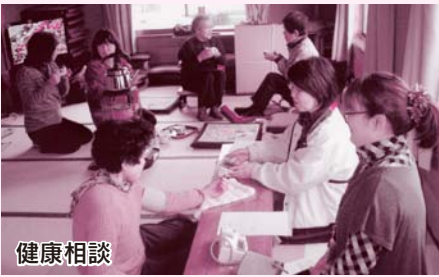
コミュニティ活動は、住民の結びつきを深める重要な活動である。子どもとお年寄りが参加できる行事として、納涼祭、収穫祭を8年前から行っている。納涼祭は、子どもたちに花火、スイカ、焼きそば。収穫祭は、うす、きねを使った昔ながらの餅つき大会。餅米は勿論地元産。この行事には住民の9割が参加し、この機会に里帰りする子連れも多い。また、お年寄りの談話、趣味の会として、「気楽会」も行っている。気楽会は、保健婦さんによる血圧測定、しゃんしゃん体操、囲碁、地元産タケノコ料理等気分転換にはもってこいの行事である。自治会は住民参加の行事には費用を惜しまないと申し合わせをしている。

助け合い活動は、全住民がとなり組であり、喜怒哀楽を共有し、声掛けは当たり前の日常である。

農村地帯でありながら、住宅街がすぐ横に迫っている。都市化の波にのまれないように、全住民がとなり組であり続けたい。(文責 村田)



収穫祭



健康相談

平成25年度 全国自治会連合会埼玉県川越大会概要報告

鳥取県自治会連合会 理事 南部 敏

平成二十五年十月十八日 埼玉県川越市の川越市市民会館において、全国自治会連合会全国大会が関係都道府県より関係者約千六十名参加のもと盛大に開催された。鳥取県自治会連合会も池原会長をはじめ事務局を含む六名が参加した。

第一部 式典

以下、大会内容を簡記報告します。

全国大会の厳肅な雰囲気の中、行事は次第に沿って進行し、今春受章された藍綬褒章受章者の紹介があり、池原会長を始め受章者が壇上にて花束の贈呈を受けられた。

そして大会宣言(案)が満場一致で可決され、次年度大会は静岡県沼津市で開催されることが報告された。

第二部 講演会

演題 「住民主体のまちづくり」

講師 NPO法人川越蔵の会 代表理事 原 知之氏

商店街やまちづくりは、その地域の伝統・文化を継承し、魅力的なまちになるよう、商店街や地域のみならず、行政などと協働し、楽しみながら、勉強しながらのまちづくり活動が大事であると強調された。

第三部 協働のまちづくり実践報告会

報告一 NPO法人子ども大学かわごえ

理事長 酒井一郎氏

報告二 南古谷ウインド・オーケストラ

南古谷ウインド・オーケストラは地区の二中学校の吹奏楽部員を核とし、平成十七年に結成された。楽団長に川越市自治会連合会副会長、全体指導を東邦音楽大学大学院教授等が行い、各パートの指導は同音楽大学の学生が担当し、月二回程度の練習は大学内の講堂で行っている。

結成当初は六十名ほどであったが、地域の人や同音楽大学付属高校生も加わり、現在では約百二十名の団員数となり、南古谷地区を

平成25年度全国自治会連合会埼玉県川越大会

主催 全国自治会連合会・川越市自治会連合会



代表する文化芸術団体に成長している。

当日の演奏はリズム感、会場を圧倒する迫力ある演奏でレベルの高さを痛感した。

第四部 交歓会

会場を川越プリンスホテルに移し、池原会長の開会挨拶でスタート、地元指定無形民俗文化財の芸能発表など川越市の伝統文化にふれるとともに、全国の会員と親交をはかるなど、実に有意義な一時を過ごすことができた。

終わりに、大会を運営された役員、関係各位のご尽力に、深く敬意を表します。

日進地区

「まちづくり協議会」の

取り組みについて

日進地区まちづくり協議会

会長 松井 満洲男

日進地区まちづくり協議会は、平成十八年四月二十八日に規約を制定し協議会活動を開始しました。

発足にあたり、地区自治会が中心となり約一年に亘って活動意義・内容等に議論を重ね、従来からの活動団体、自治連合会との「協働の形態」で活動することとしました。



きんさい祭



基本は住民の声」との思いで、地区内約千七百世帯(自治会加入世帯)を対象に、アンケートを実施して「まちづくり活動」に対しての意見」を取りまとめました。

結果は「協議会理念」「活動項目」「具体的取組」に反映し、現在もこれらを中心に活動しています。

さらに、まちづくり活動を良好な成果につなげた地域(神戸真野地区・宝塚地区・米子田園)への視察研修を実施して、「取り組み」や「問題点の解消方法」などを学びました。

活動四年後の平成二十二年六月には、市長から「コミュニティ支援宣言書」を授与され、活動への力強い支援も確約され、公民館活動を含めた地域コミュニティ活動の中心団体としての位置づけが、認証されることとなりました。

協議会活動八年間の取組項目と成果について

一、賑わいのあるまちづくり

(住民が集まってコミュニケーションが取れる)

地区まつりの開催

地区納涼祭の開催

七回実施

(二)しゃんしゃん祭り日進連の参加 五回参加

二、暮らしやすいまちづくり

(地域環境の整備・美化の推進)

街並みを綺麗に飾る

(一)末広通り花壇整備一回

(二)地区内自治会末加入世帯調査 一回

(三)学校フェンスの花壇設置 五回

(四)本通りバス停椅子増設 一回

三、歴史と文化を語るまちづくり(地域内史跡・寺院等の歴史を紹介)

会報による歴史紹介

(一)寺院 三回

(二)地藏さん等 二回

(三)名所 一回

地区内町内紹介

(一)わがまちの紹介 五回(六町内)

四、防犯・防災対策が徹底しているまちづくり(安全な暮らしが出来る街並みづくり)

防犯マップの作成

(一)作成、配布 二回

(二)回は小学校PTAと協賛)

五、協議会の企画運営(まちづくり協議会活動の活性化・活動情報紹介・PR)

まちづくり情報発行

(一)十二回 年二回実施

定期的役員会の開催

(一)年五回実施/平均

三市姉妹交流会概要

平成十八年から、岡山市連合町内会及び姫路市連合自治会と姉妹交流提携を結んで、ちようど七年目を迎えました。交流会は毎年持回りで行われ、昨年十月二十九日、岡山市の「ピュアアリティまきび」において、六十四名(鳥取市自治連合会二十名)が参加し、盛大に開催されました。

第一部の交流会は、昼食会から始まり、各市の会長あいさつに続いて、共通議題で出された「今後の交流会のあり方」等について、活発な意見交換が行われました。その後、互いに協力し、地域が発展する事を願って、近く合同専門部会を設置する方向で、協議していくことになりました。第二部の研修視察では、桃太郎伝説ゆかりの神社として知られる吉備津彦神社や吉備津神社を案内していただき、秋晴れの中、吉備路の見事な景観を満喫する事ができました。

第三部の懇親会は、JR岡山駅に近いレストランに場所を移し、さらなる交流を深めながら、次回鳥取市での再会を約し散会しました。



編集後記

本年四月に設立四十周年を迎える鳥取市自治連合会、いわゆる「不惑」の年を迎えた今日、その活動範囲は本市・県・全国へと拡大しています。「自治連だより」は、各地区のまちづくり協議会の活動を含めて、全市の加入世帯へ伝える使命を担っていると一言しても過言ではないと思います。側聞すれば好評を得ていると言われる本紙を、編集委員一同、今後さらなる内容の充実に努力する所存でございますので、各位のご指導ご協力をよろしくお願ひします。